

フィールドガイド

とよなか

むし



はじめに

本市では、体験学習の推進のために、これまで『フィールドガイドとよなか』『草と木』編、「青少年野外活動センター」編の2冊を刊行しています。今回の「むし」編は、このシリーズの第3冊目になります。

子どもたちが野外に出てまず目にするのは、植物の緑ではないでしょうか。さらに花が咲いていればもっと興味や関心を深めることでありましょう。

それにもまして子どもを自然のとりこにしてしまうもの、それが“むし”です。いまも多くの子どもたちが、まるでフェアブル博士のように好奇心いっぱいの目で“むし”を追いかけています。都市化が進んだ豊中市内と言えども、多くの昆虫たちが棲息して四季それぞれに生命の営みをしています。そして、そこには数限りない不思議や秘密がいっぱいあります。この事実の一端をぜひ紹介したいと考えました。

身近な虫たちは私たちに自然の法則や生命の神秘など多くのことを教えてくれます。この本が子どもたちの豊かな感性を育むために役立てば幸いです。

なお、この本が出来上がるまでに4年という歳月を要し、委員の方々の真摯な研鑽が実ったものであることを述べ、その労に敬意を表します。

平成7年(1995年)9月

豊中市教育委員会
教育長 青木 伊織

目次

はじめに

この本の使い方

昆虫の世界

チョウ・ガ 7

トンボ 61

コガネムシ 81

セミ 129

バッタ 145

ハチ・アリ 175

水の中のむし 189

家の中のむし 197

その他の昆虫 203

昆虫以外のむし 207

索引

あとがき

■この本の使い方 |||||

この本には、子どもが“むし”と呼んでいる生き物のうち、豊中市内でふつうに見られるものを中心に載せてあります。

市内の北部に残された雑木林や中部の服部緑地、そして猪名川河川敷、街中の公園、家の中など身近に見られる“むし”をチョウ、トンボ、コガネムシ、バッタなどの昆虫類、クモ、ムカデなど昆虫以外のものをグループごとにまとめて紹介しています。

それぞれの“むし”についての解説はできるだけやさしい言葉を使うように心がけていますが、昆虫の「はね」には翅（はね）、「あし」には脚（あし）そして前蛹（ぜんよう）などは一般的に使われている言葉と区別するために専門用語を用いています。

限られた紙数のため、この本に載せきれなかったものもたくさんあります。見あたらないときにはこの本の写真を見て、似ているものからのグループに属しているかを調べたりして、大型の詳しい図鑑で名前などを確かめてください。

この本の“むし”の名前（和名）は「原色日本昆虫図鑑」（保育社）などを参考にして、学術書や教科書などにならってカタカナで書いてあります。

昆虫の世界



昆虫は、無セキツイ動物の中の節足動物の中の一群で、基本的に、頭・胸・腹に区別される体と、4枚の翅、6本の脚を持つという点で、同じ節足動物のエビやカニなどの甲かく類、クモやムカデなどの多足類と区別されています。

昆虫は、世界中に90万種以上いるといわれ、まだ発見されていない種も多く、いったい何種類いるのか、はっきりしたことが言えないのが現実です。

日本でも、よく調べられているチョウやトンボやカブトムシの仲間は、ほぼ全部わかっており、今後新種が見つかる可能性は少ないです。その他の昆虫では、新発見があるといった具合で、日本産の昆虫でさえ何種類なのかは、はっきりしません。

これは、昆虫が、今から約4億年前ぐらいの古生代の後半に地球上に現れ、現代のものになるまで非常に多くの種類に分かれ発達してきたからで、地球上の動物の4分の3が昆虫であるといわれています。

ただ、体の大きさの小さいものがほとんどで、世界最大のガであるヨナクニサンでも、羽を開いた時の開長25cmぐらいです。ノミのような小さなものでは、1mmぐらいの体長です。多くのものが、1mm～数mmで、人の目につきにくいものがほとんどです。

昆虫の面白さは、何ととってもその色の多様さ、美しさがまず一番にあげられます。しかし、地味な色の虫であっても、木の葉や枝、地面などにとけ合って、みごとに保護色の役割を果たして、自然の神秘を感じることができます。

また、昆虫には、卵、幼虫などの時期があり、チョウやカブトムシ、ハチなどは、サナギという時期もあります。

この卵や幼虫、サナギは、親（成虫）とは全く異なった色や形をしている場合もあり、変化に富んでいるのです。

こうした昆虫の世界を知るということは、花や鳥を知ることと同じように、さらに一歩自然に近づくことなのです。

視線をある時には高く、ある時には低く地面すれすれまでにして、虫たちと同じ高さの視線でつき合っていくことも大切です。

土の香りをかぎながら、また草の香りを感じながら、虫たちの世界をのぞいてみてください。

